

平成18年度 里・上甌地域ふれあい市民会議

答 弁 要 旨

と き 平成18年7月21日（金）13：30～15：30

ところ 上甌地域老人福祉センター

出席者 市：市長，

総務部長，企画政策部長，市民福祉部長，

産業経済部長，建設部長，教育部長，

市政広報官，コミュニティ課長，

広報室長，広聴広報グループ長，広聴広報グループ員

市議：鷺山和平議員，小村亮一議員，和田岸夫議員

地域：里地域・上甌地域地区各自治会長をはじめとする

地区住民約100名

議題1 （里地域）

元気館の活用について

鮮魚や水産加工品の販売ができ、また地元の食材を使った食堂として利用可能な現在、閉鎖されている里トンボロ元気づくり館を有効活用ができないか。

【市民福祉部長】

里トンボロ元気づくり館の廃止は、国庫補助（介護保険関連サービス基盤整備事業）で整備された施設であり、用途変更は補助金適正化法に抵触するため、休止している。

利活用の提案は、これまでに絵画・俳句教室などの創作活動の場や展示ギャラリー、海産物特産品展示販売場等数件あるが、いずれも施設の利用変更の問題がある。

今後、できれば高齢者の方々が元気の源となるような施設の利活用の調査研究していく。

【市長】

港についてすぐ、里トンボロ元気づくり館をみたが、立派な施設であった。約3920万円かけて整備している。高齢者の給食配送関係等に利用されたが、空き家である。

3900万円分は補助であり、会計検査が来ておらず、来るまでは変えられない。福祉関係として認定されたので、それ以外の転用は今しばらく控える必要がある。

皆様から意見を頂いて、高齢者介護関係に使えないかと考えている。

議題2 (里地域)

魚介類物産販売施設等の整備について

「川内・甌おさかなフェスティバル」や「川内・甌とれたて市」の事業を成功させ今後も継続していくためにも、これまで以上の理解と協力をお願いします。

将来的には適地にて「市来宝来館」的な施設を整備していただき、川内・甌の魚介類を広く市民に提供できるよう地産地消の普及に寄与していきたい。

【産業経済部長】

「薩摩川内・こしきお魚まつり」は市内の3漁協が中心となって開催され、約5万人の来場者があった。今後は、川内市漁協及び甌島漁協が中心となって「川内・甌とれたて市」を5月から毎月第4日曜日に開催している。

両取組みは、魚介類の地産地消と、漁業の活性化を図る目的で開催されている。

市も両取組みの果たしている役割は評価しており、積極的に取り組んでいる。また本年度から、必要経費の一部を補助する。

今後は、とれたて市について具体的な評価も検証しながら、直売所等の整備の必要性は、現在検討中の魚市場整備計画の中で検討していきたい。

質 疑 (里漁協)

魚市場整備について、どのような線引きを考えているのか。

【産業経済部長】

魚市場整備は、平成23年まで調査・研究の名目で実施計画に登載済みである。

具体的な場所は確定していないが、甌からのアクセス、市民からのアクセス、駐車場の広さを含め川内市漁協の近くが良いのではないかと考えている。

【市長】

旧川内市時代は上川内の野菜市場の近くを考えていたが、合併し、甌も含めると海の近くがいいのではないかとということで川内市漁協の近くが候補に上がっている。東市来に宝来館という魚だけではなく、野菜・果物を販売している館がある。薩摩川内市も各地の名産を並べ、車で買い物に来れるような施設の調査をするよう指示している。

質 疑 (里漁協)

とれたて市について、日曜日に開催されているが、休みである。土曜日に開催したら新鮮なきびなごを市に出せる。よろしくお願いします。

【市長】

貴重な提言を頂いた。とれたて市は好評で遠くからいらっしゃる方もいて、30分で無くなってしまう。私どもも漁協と協議しながら検討したい。

議題3 (里地域)

海上交通の整備について

甑島の観光振興を進めるうえで大型客船の接岸できる港湾施設が必要である。

また、川内・甑島間の航路新設の願いと、高速船シーホークの料金の軽減に取り組んでいただけないか、願います。

【建設部長】

里港には2回豪華客船が寄港し、観光客の方々が甑島の素晴らしさを堪能している。

この客船の寄航に際し、防波堤の間隔が狭いことと水深が浅いことから客船が直接接岸できないため、台船を利用した上陸となり不便をおかけしている。

里港に客船が直接接岸できるための整備を鹿児島県へ照会したところ、客船を接岸させるためには港外に新たな岸壁を整備するしかないとの回答であった。

里港では防波堤改良等の港湾整備が進められており、その事業促進を要望したい。

また、新たな岸壁の整備には巨額の費用が予想されるため、現在の里港を活用した客船の接岸方法等の検討ができないかについても県へ要望したい。

【産業経済部長】

甑航路については、議会でも多数のご意見を頂いている。

新市一体感醸成、市域内経済圏の構築及び川内港の振興を目的とし、川内港と甑各港を結ぶ航路の設定・就航に向け、本年度から調査業務を開始し課題整理を行う。

また、高速船シーホークを含む甑航路の料金は、原油高騰のため甑島商船の経営が厳しい状況にあり、会社としても致し方なく料金値上げを検討していると聞いている。

現在の運賃は国土交通省の基準より低く、赤字となっても国の補助は受けられない。

市民の生活の足でもある同航路の料金値上げは、市としても残念だが、会社の経営上致し方ないと考えており、皆様の御理解をお願いする。

なお、本年度から70歳以上の高齢者の方々に対し、年間4000円の公共交通乗車補助券の交付を行っているので、活用いただきたい。

質 疑 (里漁協)

現在の串木野・甑間の航路はそのまま新たに川内・甑間の新設と理解していいか。

【産業経済部長】

その通りです。

議題4 (里地域)

婦人検診に伴うフェリー代金の補助を

本土に住む妊婦は自家用車・公共交通機関等を使って受診するが、甌島の妊婦はそれに加え船賃が余計に嵩むことになるので、フェリー代金の補助をお願いする。

【市民福祉部長】

甌島には5診療所があり、島民の健康管理、疾病管理に携わっているが、産科は開設されておらず、妊婦の方々は島外で健診を受けており、心身のご負担に加え経済的にも過重なことと考えている。

妊婦健診の交通費の助成は本市の少子化対策、定住促進を図る上からも、経済的負担の軽減により、子どもを産み育てやすい環境づくりに資するものである。

県内の離島の妊婦健診助成事業等も考慮しながら前向きに検討したい。

【市長】

妊婦の方々は大変なので、来年度から枠を設け実施できないか、検討していく。議会を通らないといけないので、議員の方々の賛同をいただきたい。できれば2分の1でも助成措置ができたらいいと考えている。

議題5 (里地域)

子供の遊び場について

みなと公園は道路が近くて遊び場所として安全とはいえないので、防護柵を設置して安全を確保し、子供が安心して遊べるための遊具の増設を要望いたします。

【建設部長】

トンボロの里みなと公園の開設当初は、この部分は出入り口ではなく、また公園と県道の高低差が60cm程度あったため、幼児等の飛び出しは困難であった。その後県道に歩道が整備され、公園と歩道を擦り付けて段差を無くしたため、自由に出入りできるようになった。出入り口が少ないことから、この部分を締め切ることは適当でないと考えるので、出入り口も確保できるような方法等を検討したい。

また、遊具の増設は、現在設置している遊具の状況を見ながら検討したい。

議題6 (上甌地区)
市道中甌・江石線の道路改良について

昨年も要望したが、急勾配・急カーブが多く車両の通行、日常の生活に大変不自由をしているので、事情をご賢察いただき、トンネルによる道路改良をお願いしたい。

【建設部長】

前回の市民会議及び陳情等でも要望があった。中甌地区と江石地区を結ぶ幹線だが、急勾配と急カーブの連続で交通等に支障があり、旧上甌村時代に予備設計等を実施されると共に国県へも要望されるなど、長年の地元の悲願であると認識している。

トンネルによる道路改良は取付道路等を含むと約20億円以上の財源が必要である。今後、事業費を抑えるためにどのような方法があるかの調査・検討や、補助事業の導入など事業手法について国・県等と協議したい。

質 疑

先の知事の話で県道へのアクセス道路の整備が必要であると言っていたので、県と掛け合っていたきたい。高齢者が道路を登って検診に向かうのも難しい。日常生活に大変不便であるので、道路が実現できるよう、ぜひお願いしたい。

【市長】

たびたび要望を頂いている。知事も、甌島には重点的に政策を展開していきたいと話をしてきた。住民の方々も大変不便を感じていらっしゃるし、市議会の中でも橋が架かかると、周遊できる道路を作るべきではないかと質問があった。

トンネルには、20億かかるが財源をどうするか、よそからもってこれるか、また過疎債、合併特例債は当てられないか考えていきたい。

医療保険、福祉、教育のことを考えると道路の整備が必要である。

議題7 (上甌地区)
里道(赤線)の管理補修について

労力奉仕作業ではどうも補修できない危険箇所の対策を早急をお願いしたい。

【建設部長】

各自治会においては、自主的な奉仕作業により生活関連道路等の除草・清掃などを積極的に行っていただき、誠に感謝している。

手に負えない箇所は、支所の産業経済課建設グループに連絡いただければ、職員が現地調査のうえ、状況を確認の上、対応したい。

議題8 (上甌地区)
長目の浜海岸侵食について

大型台風や荒天時の荒波で海岸が浸食され、樹木の枯渇の箇所もある。中洲の破壊となまこ池・貝池の生態系の変化も予想される。早急な対応をお願いしたい。

【建設部長】

「長目の浜」は、甌島でも屈指の景勝地であり、甌島観光の目玉である。

また、長目の浜は鋤崎池（淡水）、貝池（汽水）、海鼠池（海水）が並んでおり、このうち貝池には世界3箇所で見つかっていない30億年前のバクテリア「クロマチウム」が生息しており学術的にも貴重な湖である。

台風による決壊をコンクリートブロックで修復したものの、樹木林がなく景観が損なわれている区間は、県事業である魅力ある観光地づくり事業へと提案中である。

この海岸侵食の原因究明とそれに基づく対策の検討・実施を海岸管理者である県へ強く要望しながら、長目の浜を市の観光振興の拠点として今後とも活用して参りたい。

議題9 (上甌地区)
基本検診受診場所の拡大について

上甌町内7箇所で行われていた基本検診は3箇所に集約され、検診場所までの交通手段を持たない高齢者等の生活弱者は自然と受診が遠のいている。

以前のように7地区で実施していただくよう要望する。

【市民福祉部長】

旧上甌村では、平成16年度まで上甌診療所に委託で実施した。基本健康診査・大腸がん検診のみだったが、平成17年度から利便性を考慮し、この他に胃がん検診・前立腺がん検診・骨粗しょう症検診・腹部超音波検診の複合検診として実施している。

複合検診のため、検診車が3台必要で、駐車場・検診場所の広さ並びに100名程度の受診者の確保も必要であり、以前の会場全部での実施は困難である。しかしながら、中甌地区（上甌老人福祉センター）で実施している検診は、受診者対象者も200名を超えているため、江石地区での実施も行う方向で委託機関とも協議したい。

検診会場まで距離のある桑之浦地区は、支所とも協議の上、送迎も検討したい。

質 疑

検診が来なくなって、車がない高齢者が行けなくなって困っている。高齢者の健康を守るため道路も含めて解決いただきたい。道路の補修も時間がかかった。

【市長】

回答の通り、江石地区での実施を協議し、桑之浦地区は送迎を検討したい。里の海岸線に走る道路の整備が終わりそうなので、予算が回せないかと考えている。土砂崩壊は、車が通れるようすぐに土砂を除くようになっている。お気付きになった点は、なんでも申し出てほしい。

議題 10 (上甕地区)

J R 串木野駅での乗継時間の短縮について

海上交通体系は飛躍したが、串木野駅での乗継はフェリーと連携されていない。フェリー第1便の到着に合わせて上下便の運行ができるよう J R への要望をお願いしたい。

【産業経済部長】

甕島商船「フェリーニューこしき」第1便の串木野新港着の時間帯は、J R 九州鹿児島本線のダイヤは、上下とも1時間に1本のみであり、駅到着の時間によっては待ち時間が生じている。

本件は、鹿児島県鉄道整備促進協議会を通じ、J R 九州に要望を続けており、引き続き要望活動を続けていきたい。

質 疑

前回の市民会議でも要望した。高齢者の立場から鹿児島まで病院に行く高齢者が多く、午前中の検診に間に合わない。また、林田バスの本社に、鹿児島市に直行できるバスをお願いした。川内にくるくるバスが通っているので、川内駅までのくるくるバスを用意していただければ、新幹線で鹿児島まで午前中に着ける。

【市長】

前の市民会議の際も意見いただき、J R 九州の本社にいき営業部長に会い、要請した。全体で動いているダイヤの一部だけを変更するわけにはいかないとのことだった。次のダイヤ改正までをお願いしたい。

甌島商船にも、もう10分早くならないか交渉する必要がある。

林田バスは、バス路線を廃止する方向である。串木野港から川内市内に入るバスは残していただくよう協議する必要がある。串木野港から串木野駅までは、いちき串木野市長とも協議する必要がある。

合併した旧4町でもくるくるバスは走っている。上手く結んで、市街地まで来れるようにと調査させている。もし、串木野港から川内までのバスがなくなった場合は、くるくるバスも検討しなければと思うが、お願いすれば1200万円くらいかかる。

検討しているが、ご意見として承る。

質 疑

上甌でゴミ分別を始めてからまもなく1年になる。先だって、クリーンセンターから「粗大ゴミの中に瓦とか入っていた、今後は出さないように」ということがあった。災害後に瓦、少量の危険物を捨てる場合、個人はどのような処理をすればよいか。

【市民福祉部長】

家の解体等は産廃業者になるが、少量のものは基本的には自分で判断するということがクリーンセンターでは引き取っていない。今後は、支所とも協議し、前向きに回答したい。

【市長】

ごみの問題は合併後、11種類に分別いただきご苦労頂いている。産廃は一般廃棄物と違い市で処理していないため、産廃業者に処理する施設に運ぶことになる。

台風の後などの自分で処理するには困る量は、どこかステーションとして集め、トラックに積むくらいの量になったら産廃業者に引き取っていただくとか知恵を出す必要がある。